



# ほほえみ

碧南市民病院



NO.53

平成29年1月1日発行

発行：碧南市民病院

病院長 梶田 正文

編集：地域連携委員会

## 新年のご挨拶

病院長 梶田 正文



新年あけましておめでとうございます。

平成28年は4月に熊本で震度7の揺れを観測した地震があり大きな被害をもたらしました。多くの倒壊した家屋や、熊本城が受けた甚大な損傷の様子をテレビで観て衝撃を受けました。また、8月には台風により岩手・北海道に大きな被害をもたらしました。被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。これからは日本だけではなく地球規模で温暖化に伴う自然災害に対応していかなければなりません。こうした中で、10月にノーベル生理学・医学賞が大隅良典先生に贈られることが発表されました。3年連続しての日本人のノーベル賞の受賞は大変に誇らしいものでした。大隅先生は、細胞が自身のたんぱく質を分解してリサイクルする「オートファジー（自食作用）」の仕組みを発見されました。今では「オートファジー」を利用した病気の治療法の開発が盛んに進められています。

さて、8月に日本経済新聞から「日本の医療費は高額 新基準で世界3位 対GDP、OECDまとめ」という見出しの記事が発表されました。平成26年の日本の保健医療支出の対GDP比率は新基準では11.4%であり、世界3位に急上昇しているというものです。その理由について記事では、日本では高齢化に伴い医療費が伸びているだけではなく、OECDが求める最新基準に合わせて介護関係の費用の一部を含めた影響が大きいとしています。もしこの主張が正しければ、わたくしも含めて日本の医療関係者の多くが過去のOECDの報告をもとにして日本の医療は他の先進国と比較して低コストで質が高いと信じてきましたが、その根拠が根こそぎ揺らいだこととなります。

国際比較をするときにはドルが基準となります。平成25年には1ドル97円台の円高であったものが、平成26年には1ドル105円となりました。保健医療支出の対GDP比率を比較する場合には、分母となるドル換算のGDPが減った影響も考慮する必要があります。また、権丈善一慶応大学教授は、「日本のように人口が減少している国の経済成長の目標は一人当たりGDPを用いること、すると、その一人当たりGDPの伸び率は欧米と比べても見劣りせず、しかも雇用面は良好。したがって、日本の経済は別に大病を患っているわけではない。」と話されています。保健医療支出についても、日本の一人当たりの数値でみればまだOECDの平均をわずかに超えているに過ぎません。国際比較の限界を考えたうえで議論を進めていく必要があると考えます。

しかし、平成27年度の医療費(概算)は41兆円を超え、過去最高額を更新しました。前年度と比べ1兆5千億円の増加で、伸び率は3.8%でした。この日本経済新聞などの記事と合わせて医療費削減の圧力が強まるのは避けられません。すでに様々な形で国民の医療介護費用の負担を増やすことが議論されています。今後の議論を注意深く見ていく必要があります。

さて、この1~2年前から研修医や後期研修医の人数が減少してきています。救急外来などで大きな力となっている研修医が減少すると、上級医の負担が増えてきて翌日以降の昼間の診療に支障をきたします。当院の救急外来は休日・夜間診療所ではありませんので、救急外来のいわゆるコンビニ受診は避けていただきますようお願いいたします。病院としては研修医・医師の確保に引き続き努力してまいります。皆様には今後とも研修医の教育および指導にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

この1年が皆様にとって良い年でありますように願っております。





## 平成28年度外来満足度調査 結果報告

サービス委員会では、10月3日～10月7日まで外来診療を受けられた方を対象に、当院の満足度調査を実施しました。(回収数917枚)

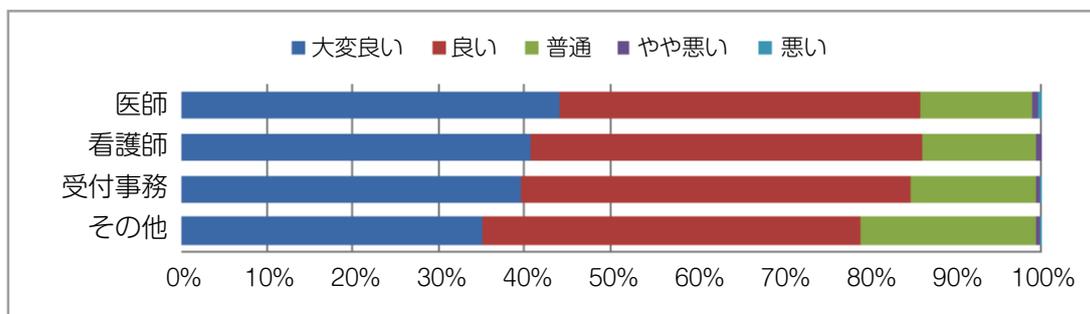
調査項目の主な結果は以下の通りです。(無回答のものについては数値に含めておりません。)

患者さんの対応については、概ね8割の方に満足していただいておりますが、設備環境などについては、約6割前後という結果でした。昨年度と比較して、ほぼ同じ結果となりました。

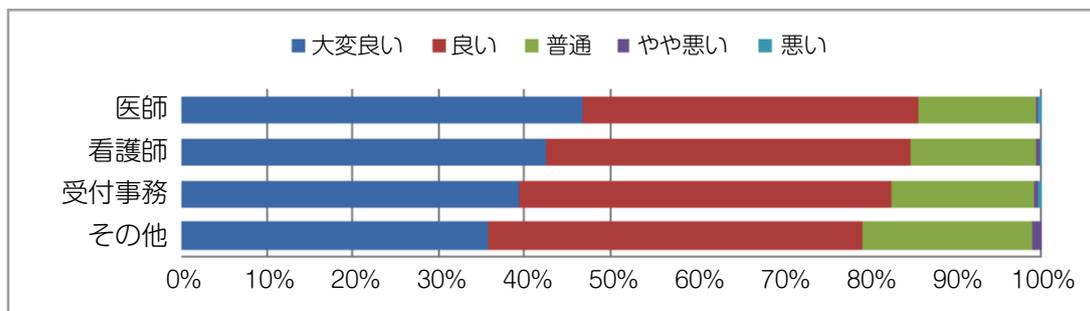
これらの調査結果を、今後の患者さんの満足度向上につなげていきたいと思っております。



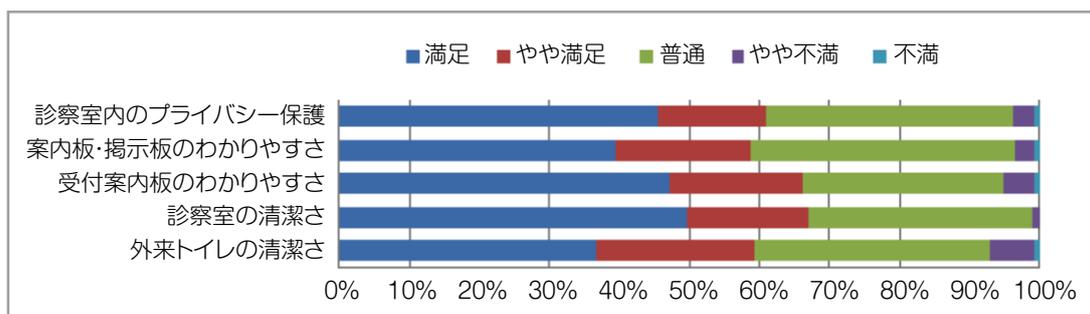
### 問 言葉づかいはいかがでしたか



### 問 対応はいかがでしたか



### 問 設備環境・プライバシーについて



# Event News

9月～11月

病院内で様々なイベント等をおこないました。その一部をご紹介します。

## 9/7 がん征圧月間関連行事



「わたしと家族のためにがんについて知っておきましょう」をテーマに、乳がん検診に関する講演会などが行われました。

## 10/14 市民いきいき健康講座①

当院の感染管理認定看護師が、インフルエンザウイルスなどの感染症の特徴や対策を解説しました。



## 11/1・2 秋のバラ展

K.I.ローズさんによる秋のバラ展が開催され、鮮やかな色彩が院内を明るくしてくれました。



## 11/11 市民いきいき健康講座②

当院の歯科衛生士が病気や老化の予防に大切な『歯・口・力』を解説し、嚥下体操などを紹介しました。



## 9/28 オカリナコンサート

オカリナハートさんの素晴らしい演奏に、会場は大きな拍手に包まれました。



## 10/31 どんぐりっこ音楽会

碧南市立中央幼稚園の5歳児のみなさんが歌を披露し、「元氣



になりますように」と壁掛けをプレゼントしてくれました。

## 11/8 第19回 全国糖尿病週間関連行事



糖尿病や糖尿病予備群にならないために、血糖自己測定や血管年齢測定などで健康チェックをしたり、ポールウォーキング体験などを行いました。

## 11/17 秋のお茶会

2階病棟のダイニングルームで行われ、患者さんやお見舞いに来た方々などたくさんの方にご参加いただきました。



# 早期からの 緩和ケア



ある日のサロンの風景

こんにちは緩和ケア認定看護師の田淵です。  
みなさんは緩和ケアというとどんなイメージを持ってみえますか？

「がんの痛みが出てからのもの」「つらくなってから始めるもの」というイメージを持たれている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

最近では、緩和ケアは「がんと診断された時から始めるもの」「治療と並行して行われるもの」と言われるようになってきました。

がんと伝えられた時、治療について考える時、がんを持ちながら仕事や日常生活を送る時…。自分の気持ちを打ち明けたり、身体や心のつらさを相談できるサポーターが近くにいたら心強いと思いませんか？



「もしもの時のために、あなたの受けたい医療について家族と話し合えていますか？」をテーマにした座談会の様子



緩和ケア認定看護師である私と緩和ケアチームのメンバーは、患者さんのからだや心のつらさを和らげ、患者さんが自分らしく生活できるお手伝いをするサポーターでありたいと考えています。

緩和ケアチームでは、その人らしい生活をおくるためのお手伝いができるよう、心の栄養と、癒しの場となる「患者サロン」を開催しています。

患者サロンでは、がんを持った患者さん同士で楽しくお話ししたり、周りの人にはちょっと話しにくい生活の中のあるあれこれを相談したりしています。参加されている方からは「一時間があっという間だった」「同じ病気を持った人にも出会えて、ここでは話したいことが話せる」などのお言葉を頂いています。

最近はサロンの活性化が、私たちスタッフだけでなく参加メンバーとの共通の話題です。「一人で考えている人もここにきて一緒にお話しできたらいいのに」「そのためにはどうしたらよいか？」などの話で盛り上がり、参加メンバーもすっかり患者サロンの参謀でもあり心強い仲間です。

サロンは予約不要で、案内チラシは病院の主な外来待合、化学療法室、放射線治療室などにおいてあります。興味のある方、ぜひ一度サロンをのぞきにきませんか？担当の看護師と薬剤師がお待ちしています。

## 患者サロン

**対象の方** 碧南市民病院に通院されているがん患者さん  
**日時** 隔月第2金曜日14時～15時  
**場所** 碧南市民病院第3会議室（時に変更有り。チラシを確認してください）

## 向こう3ヶ月間の行事予定

日時	行事名	場所
1月13日(金)	市民いきいき健康講座④「やってみよう！認知症予防体操」	エントランスホール
1月23日(月)	目で見て感じてわかる糖尿病教室「だれでもできる食事療法のコツ」	講義室(2階)
2月20日(月)	目で見て感じてわかる糖尿病教室「あなたが変わる運動のコツ」	講義室(2階)
3月13日(月)	目で見て感じてわかる糖尿病教室「合併症を防ぐカギ」	講義室(2階)

このほかにも、患者さんやご家族の方向けの講座やイベントなどを開催していきます。  
最新の情報はホームページ (<http://www.city.hekinan.aichi.jp/HOSPITAL/index.htm>)をご覧ください。